

テニス型ゲーム実践報告書

1 実施校・学年

千葉県流山市立東深井小学校
第4学年



2 実施期間

2019年11月～12月上旬

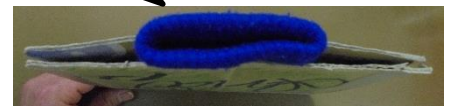
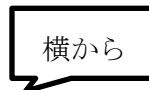
3 単元名

ゲーム ネット型ゲーム
「テニピン」

～4回つないで・ねらってスマッシュ～

※段ボールマイラケット使用

(右図参照)



4 単元目標

<知識及び技能>

- ・ボールのバウンドする位置を予測して移動し、リズムを合わせて打つことができる。
- ・つなげる打ち方と攻める打ち方を使い分け、相手コートに返し、ラリーを続けることができる。

<思考力・判断力・表現力等>

- ・つなげる打ち方と攻める打ち方のどちらを選択すればよいか考え、伝えることができる。
- ・相手のコートの中のあたりを狙えばよいか考え、伝えることができる。

<学びに向かう力・人間性等>

- ・進んで準備や片づけを行い、安全に留意して運動することができる。
- ・ゲームのルールを守り、勝敗を受け入れることができる。

5 単元指導計画

時配	1	2	3	4	5	6	7(本時)	8	9
3分		準備、あいさつ、準備運動							
8分	オリエンテーション	<ドリル運動> ・コロコロショット ・キャッチ&ラリー ・スロー&ヒット			<ドリル運動> ・キャッチ&ラリー ・スロー&ヒット ・ペアラリー			四年一組 テニピン大会	
27分		<タスクゲーム> ・ペアラリー <ゲーム①> 「テニピン」 ゲームⅠ			<タスクゲーム> ・狙ってスマッシュ <ゲーム②(リーグ戦)> 「テニピン」 ゲームⅠ→チームの振り返り→ゲームⅡ				
5分	反省、ふり返り、まとめ								
2分	あいさつ、片付け								

6 本時の展開

時配	学習活動と内容	○指導・支援 ●評価
3分	1 準備 ・学習の場の準備をする。	○安全に気をつけて、素早く使う用具を準備させる。 ○安全確認も含め、距離等正しく置くようにさせる。
2分	2 あいさつ、準備運動、健康観察 ・あいさつをする。 ・使う部位をほぐす。	○顔色や服装を確認する。 ○チームごとの準備運動で各部位をしっかりとほぐすよう促す。
8分	3 ドリル運動 ①キャッチ&ラリー ②スロー&ヒット ③ペアラリー ※各コートで行う	○打つ強さが適当かどうか判断させ、相手がキャッチできる強さを体感させる。 ○各ペアとの最高記録を達成できるように回数を数えて意欲づけさせる。
1分	4 めあての確認、健康観察	○顔色や服装を確認する。
つなげる打ち方と攻める打ち方を使い分けて相手コートに返そう		
6分	5 タスクゲーム 「狙ってスマッシュ」	○ボールを打つ位置が打ちやすい位置になっているか確認させる。 ○上手く打てない児童にはまずは相手のコートに返すことを第一に考えさせ徐々に目指す場所へ打てるよう声かけする。
18分	6 メインゲーム <ゲームⅠ> (7分) 《チームの振り返り》(1分) ゲームⅠを振り返り、ゲームⅡで生かせることを伝え合う <ゲームⅡ> (7分)	○深いボールやするどいコースに打たれたときはつなげる打ち方を使い、浅いボールや打つのに十分狙いを定めて打てる時は攻める打ち方を使うといった使い分けを気づかせるとともに意識させる。 ●ドリル運動やゲームの中で互いの動きを見合ったり声をかけ合ったりして、互いを高め合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) ○ゲームⅠで上手く得点につながったところの理由を見つけ継続させ、失点につながってしまったところの理由を見つけ改善を促す。 ○ゲームⅠでの反省を生かせるようにめあてを意識させる。 ●つなげる打ち方と攻める打ち方を使い分け、相手コートに返すことができる。(知識・技能)
5分	7 反省、ふり返り、まとめ ・試合のあいさつが終わったところからチームで集まって反省を行う	○今日のめあてに沿った MVP を選出させるとともに、次時へつながるようにゲームの中で学習できたことを各チームで話し合わせる。 ○顔色や服装を確認する。
2分	8 あいさつ、片付け	○安全に気をつけて使った用具を素早く片付けさせる。

7 実践をふり返って

<テニピン>

- 1時間の授業の中で一人一人の触球機会が確保されているので、一人一人の運動量の確保、技能向上の機会がしっかり設けられていた。
- 一人一人が得点を決めたり、相手の球を拾ってつなげたりでき、誰でも主役になれ、一人一人が輝けた。
- 最初はなかなかラリーが続かない児童も多かったが、ゲームの中にも「必ずラリーを4回行ってからスタート」というルールがあるおかげで、ボールを打ち返すことに徐々に自信がもてるようになった。
- ボールを打ち返す技能を高める際に、ふり返りから自分でめあてを設定するとともに、グループ内でのかわり合いが自然と増えていった。
- ▲ゲームの中でインなのかアウトなのかセルフジャッジでもめてしまったときに、無駄な時間を費やしてしまい、運動量が減ってしまった。

<用具>

- 段ボールラケットは個人で作成できるため、マイラケットとしてみんな愛用していた。
- 段ボール（20cm 四方）と段ボールの間に手袋をはさんでボンドで貼ることで、手と段ボールの一体感が増し、途中で外れることがなかった。また、ラケットのサイドはガムテープでとめないことでラケット面の湾曲を無くし、ボールをしっかりとらえることができた。
- 冬の始めに行ったこともあり、段ボールラケットに手袋を間に入れることで寒さ対策にもなった。
- ボールは「YONEX」のスポンジボールを使用した。大きさ、やわらかさ、跳ね具合どれも児童の技能習得に適していた。（校庭で行ったが風に負けることなく実施できた）
- ▲ラケットの周りの角を切ることで安全面が向上する。また、本来のラケットの形に近づく。
- ▲今回の実施の時間で強風の時は無かったが、強風の際はボールが上手に扱えない可能性もある。

<場の設定>

- 縦10m×横5mのコートをコーンとバーで区切ってコートを作成し、学校にある用具の中で行えたので、準備も簡単だった。（上画像参照）また、事前にスズランテープで目印となる杭を打ったため、他クラスでも同じように実施できた。
- 校庭なのでコートとコートの間を適度に広げられるため、他コートにボールが入ったり、人と人がぶつかったりする危険性がなかった。
- ▲授業を行う中でラインが見えにくくなっている部分があり、ジャッジに困ったときもあった。

（文責 稲垣 雄介）